

岩手県在宅保健活動者連絡協議会




過去の研修会の様子

令和2年5月19日(火)に開催予定としておりました令和2年度岩手県在宅保健活動者連絡協議会総会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止と出席者の安全確保を図るため、書面開催とし、研修会は中止となりました。

CONTENTS

- 02 会長あいさつ
- 03 事務局あいさつ
- 04 令和2年度総会
- 06 令和2年度 国保連合会事業への協力及び地区活動予定
- 07 令和元年度東北地方在宅保健師等会連絡会議報告

- 09 令和元年度都道府県在宅保健師等会全国連絡会報告
- 11 会員の声
- 13 事務局からのお知らせ



国保イメージキャラクター
「ハピルスくん」

会長あいさつ

岩手県在宅保健活動者連絡協議会

会長 阿部 恵美子

会員の皆様、関係者の皆様
お元気ですか？



例年ですと若葉の美しい季節の5月に第18回岩手県在宅保健活動者連絡協議会総会を開催しておりましたが、残念ながら、国内外で発症した新型コロナウイルス感染症の対策のため、総会は書面開催、研修会及び役員会は中止となりました。

会報「ひまわり」の発行の時期となりました。この紙面をお借りし一言ご挨拶申し上げます。

まず、総会に向けての準備ですが、3月3日開催予定の役員会は急遽書面開催に変更、役員全員から文書による賛成の回答により各議案を決定。総会資料として5月11日付けで全会員に送付。5月29日までに回答を得てすべての報告事項、議決事項に対し承認をいただきました。

特に、役員改選にあたり旧役員の皆様、今後ともよろしく願いいたします。

私共の事務一切を担っていただいている岩手県国保連合会保健事業担当の職員の皆様、会員の皆様にご場をお借りし心より御礼申し上げます。

また、本年度の会員数は76名、ご入会された新会員5名の皆様にはあらためて歓迎申し上げます。

さて、この会は、平成16年2月、岩手県内に住む一度は保健所や市町村職員を退いた在宅の看護職（保健師・助産師・看護師）・栄養職（管理栄養士・栄養士）・口腔衛生のスペシャリスト（歯科衛生士）等で特に社会貢献活動に熱心な個々の会員が集い、数ある社会貢献活動の一つとして選び、岩手県国保連の保健事業を支援するために設立されました。その活動は、県内6つのブロックを単位に「市町村における、保健福祉活動の重要性を認識し、住民の健康づくりを支援するため、知識と経験を活かし地域

の保健活動に寄与するとともに、会員の資質向上と会員相互の親睦・交流・連帯を図ること」を基本方針に掲げ活動を行っているところで

す。
これまでの活動につきまして、礎を築かれた先輩方と事務局の地道な努力に、改めて感謝を申し上げます。

人生80年から100年時代に入りました。また、国では2040年に向けた全世代型社会保障制度は健康寿命延伸を目的とする施策を次から次へと打ち出しており、その一つが国保の保健事業・後期高齢者保健事業・介護保険事業を一体的に進める、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施です。

新型コロナウイルス感染症はヒトからヒトへの感染により発症すると言われており、予防するために、3密（密集、密接、密閉）防止のための「新しい生活様式」の実践が求められております。

感染症対策は、防疫の歴史であります。公衆衛生はすべて（不特定多数）の生命と生活を守る事と思います。ウイルスの現代社会に対する脅威について、社会・心理学者の方が3つの感染症として次のように話していました。ウイルスは第一の感染症として「病気・疾病」の原因となり、第二の感染症「不安」を起こし、その不安は第三の感染症として「差別」を生み出す連鎖を作り出している。このことは、私たちが闘う相手は「ウイルスであって、人間ではない」と言い切っています。良寛禅師の言葉に「災難に逢う時節には、災難に逢うがよく候。死ぬ時節には、死ぬがよく候。是はこれ災難をのがる妙法にて候」と。そのような心境にはなかなかかなれないものですが、人に起こることはすべて自分にも起こる事だと心得て平常からそれに対し心を定めておくべきと良寛様は言っているのだと思いながら、私も心の中でガッテンしています。それなりに「加齢 年齢を重ねるということは生きる力も育つ」自然な現象と考え、人生の四苦「生病老死」は誰もが通る道で避けて通れません。だからこそ、「発症しても生きやすさ」を一番に大切にできる社会の一員で

ありたいと思います。

国保連が実施する保健事業の一つ「国保・後期高齢者ヘルスサポート事業」を私たち世代のための事業ととらえ多いに期待したいと思います。

また、皆様といつ再会できるかわかりませんが、令和2年2月6日国保中央会主催の都道府県在宅保健師等全国連絡会で原理事長からいただいた挨拶の一文「自分でやれる範囲で楽しく継続的な活動を」忘れずに会員、関係者のご指導をいただきながら、ひとり一人の繋がりを大切にしながら進めたいと思います。皆様の益々の健康と本協議会の更なる発展を祈念し、私の挨拶といたします。



事務局あいさつ

岩手県国民健康保険団体連合会
総務事業部長兼保健介護課長
鈴木 敬之



本協議会の会員の皆様方には、これまでの経験や専門性を活かして保健活動を実践していただくとともに、日頃から研鑽をつまね、地域住民の健康の維持・増進に御尽力をいただいておりますことに深く敬意を表します。

また、本会の保健事業の推進につきましても、御理解、御支援をいただいておりますことに対しまして、厚く御礼申し上げます。

さて、今年度の本協議会の総会・研修会につきましては、新型コロナウイルス感染拡大の防止と会員の皆様の健康の確保を図るため、総会については書面で開催することとし、研修会についてはやむを得ず中止せざるを得ない状況となりました。

国においては、4月7日に新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態宣言が出されま

した。幸い岩手県において感染者は確認されていませんが、「ステイホーム」というキャッチフレーズのもと、外出等が自粛され、これまでの生活が制限されました。

今回の緊急事態宣言が出された背景として、医療現場が急激な新型コロナウイルス感染者の増加に対応できなくなる可能性があるということも要因と言われていています。そのなかで、保健所の職員や医療関係者は不眠不休で働いており、体力的にも精神的にもぎりぎりの状態で患者の対応に当たっています。

本県においても、保健所の職員が住民からの新型コロナ感染に関する詳細やPCR検査を受けたいなどの相談が多数寄せられており、その対応に追われていることから、一部の地区において、保健所からの依頼を受け本協議会の会員がお手伝いをするなど、それぞれの地区において奮闘されていることに対し、改めて敬意を表します。

今年度については、この新型コロナウイルス感染の影響により、本協議会の事業運営も通常どおりできない状況になっておりますが、何よりも大切なことは会員皆さまの健康の確保が一番であり、引き続き新型コロナウイルス感染症の対策を優先的に続けていく必要があります。

このような中、前述したとおり各地区において、市町村や保健所からの要請があった場合は、皆さま方がこれまで培っていただいた専門的なノウハウを活用できる場面においては積極的な対応をお願いしたいと思います。また、今後とも、市町村が保健事業を展開するうえで、本会として市町村の個別課題やニーズに合わせた支援対応をしていく必要があるものと考えていますので、皆様には、今後とも、豊富な知識と経験のもとお力添えをお願いします。



令和2年度 総会

令和2年度総会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止と出席者の安全確保を図るため書面開催とし、すべての事項について承認いただきましたので、報告いたします。

書面議決結果

(会員77人中、56人返送)

※会員数は5/29時点

報告事項

報告第1号：承認56人 不承認0人

議決事項

議決第1号：承認56人 不承認0人

議決第2号：承認55人 不承認0人
無回答1人

◆報告事項

報告第1号

「令和元年度岩手県在宅保健活動者
連絡協議会事業報告について」

<国保連合会保健事業への協力>

- ・岩手県国保連保健事業推進会議(H31.4.22)
- ・岩手県脳卒中予防県民大会2019(R元.7.12)
- ・岩手県国民健康保険フォーラム(R元.8.28)

<岩手県事業への協力>

- ・地域づくりアドバイザーの派遣と協力
(4月~3月)
- ・岩手県介護予防市町村支援委員会(R元.9.3)
- ・岩手県いい歯の日のつどいin釜石(R元.11.10)
- ・岩手県介護予防市町村支援委員会の委員の推薦
(R元.12.19)
- ・地域づくりによる介護予防推進支援事業に
係るアドバイザーの推薦(R2.3.31)

<地区ブロック活動>

○盛岡地区

- ・介護予防教室事前研修会(講演,実技指導等)
- ・元気アップ体操教室(19回)
- ・矢巾町特定保健指導支援(29日間)
- ・盛岡市民体カテスト&ファミリー体力測定会
(2回)(健康状態調査,救護活動)

- ・雫石町保健推進員研修会支援
(健康劇,ミニ講話,笑いヨガ指導,練習4回)
- ・滝沢市健康応援フェスタ(骨量測定)
- ・盛岡市(土淵地区)第2回ケア会議
- ・西松園自治会歯科保健健康講座(口腔体操等)
- ・国保連職員健診事後指導(3日間)
- ・介護予防従事者多職種連携研究会
- ・いこいの家(4回)(血圧測定,健康相談等)
- ・八幡平市健康相談他(36回)(健康相談等)

他

○花巻地区

- ・石鳥谷地区介護予防教室(健口体操等)
- ・介護予防教室(2回)(認知症老化予防の食事等)
- ・認知症予防、楽しいレクリエーション
- ・介護予防事業「歯つらつ健口教室」
(3回シリーズ×2回)
- ・自立支援ケア会議(口腔衛生等の助言) 他

○久慈地区

- ・午前:まちの保健室、午後:オレンジカフェ
(12回)(健康相談,認知症相談,作業)
- ・保育園出前保健室(8回)(健康相談,行事参加等)
- ・出前カフェ(2回)(認知症講話,押し花作り等)
- ・高校野球(5日間)(救護)
- ・あまちゃんマラソン大会(救護)
- ・もぐらんぴあマラソン大会(救護) 他

○二戸地区

- ・軽米町特定健診支援(3日間)
- ・みんなで楽しむ健康づくり(血流測定等)
- ・このへ健康フェスティバル(握力測定)
- ・まちの相談室(月2回)(健康相談,血圧測定)
- ・介護予防サロン(月1回10回)
(健康相談,血圧測定,体操や運動)

○沿岸地区

- ・学童野球大会(2日間)(救護)
- ・釜石市花火大会(救護)

○県南地区

- ・がん征圧・患者支援チャリティー活動
(リレーフォーライフジャパンいわて参加)
- ・認知症予防支援(2日間)
- ・シニアカフェでの健康づくり支援

- 健康づくり支援（相談・週1回3か所）
（いきいき百歳体操及びかみかみ体操）
- 認知症予防支援（佐野原13回、華かみ9回）
- 社会貢献事業（一般住民への健康づくり支援）（若い保健師への自主学習支援）等
- サロン健康づくり支援（月1回）
- 栄養指導（子どもクッキング）（特定保健指導）等
他

◆議決事項

議案第1号

「令和2年度岩手県在宅保健活動者
連絡協議会事業計画について」

令和2年度事業計画

I 基本方針

市町村における保健・福祉活動の重要性を認識し、住民の健康づくりを支援するため、豊富な知識と経験を活かし、地域の保健・福祉活動に寄与するとともに、会員の資質向上と親睦を図るため下記の事項を推進する。

II 目標

- 高齢者の健康づくりについて、介護予防の面から支援する。
- 地域の食育活動をとおり、若い世代からのメタボリックシンドローム対策につなげる。
- 保健推進委員や食生活改善推進員等の住民組織活動を協力・支援し、地域保健活動のさらなる活性化につなげる。

III 具体的実施事項

- 総会・研修会等の開催
 - 全体研修会の開催 年1回（5月）
 - ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため全体研修会は中止
- 役員会等の開催
 - 役員会 年2回（11月、3月）
- 国保連合会保健事業への協力
 - 岩手県脳卒中予防県民大会への協力
- 市町村及び社会福祉協議会等の保健事業への協力

- 岩手県事業への協力
 - 地域づくりによる介護予防推進支援事業に係るアドバイザーの推薦及び事業の協力
- 会報「ひまわり」の発行
 - 年1回の発行（7月）
- 会議・研修等への参加
 - 東北地方在宅保健師等会連絡会議
 - 都道府県在宅保健師等会連絡会
- 会員相互の情報交換
 - 地区ブロック単位の電話連絡網の活用
 - 新会員加入促進に向けた取り組み
- その他、協議会が係わる保健、福祉活動等

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、具体的実施事項の事業内容が変更する場合があります。

議案第2号

「役員改選について」

（任期：令和4年度総会まで）

会 長			
阿 部 恵美子	保健師		
副 会 長			
木 村 明 美	歯科衛生士		
高 橋 喜久子	管理栄養士	花巻地区代表	
幹 事			
佐々木 順 子	保健師	職種代表	
小 原 ナツ子	准看護師	職種代表	新任
辻 恵 子	管理栄養士	職種代表	新任
佐々木 みや子	保健師	盛岡地区代表	
植 田 幸 子	保健師	沿岸地区代表	
中 村 喜代子	看護師	久慈地区代表	
中 里 早 苗	保健師	二戸地区代表	
小野寺 コシ子	保健師	県南地区代表	新任

2年間、よろしく願いいたします。

令和2年度国保連合会事業への協力及び地区活動予定

◆国保連合会保健事業への協力

- ・岩手県脳卒中予防県民大会への参画

◆地区ブロック活動

現時点での各地区の活動計画は次のとおりです。

〈盛岡地区〉 会員 25 名

- ・矢巾町特定健診結果説明支援
- ・盛岡市体力運動能力調査救護支援
- ・元気アップ体操教室（助成金事業）
- ・地区定例会

〈花巻地区〉 会員 11 名

- ・西和賀町歯科衛生士による講話及び実技指導
- ・高木小路公民館元気出まっせ運動、健口体操（月2～3回）
- ・江曾自治公民館元気出まっせ運動、健口体操（月3回）
- ・好地会館元気出まっせ運動、健康体操（月2回）
- ・歯科衛生士によるフッ素塗布（乳幼児）

〈二戸地区〉 会員 8 名

- ・軽米町特定健診支援
- ・軽米町まちの相談室（7月から月2回）
- ・このへ健康フェスティバル（10月下旬）
- ・打ち合わせ会及び新年会（1月）

〈久慈地区〉 会員 6 名

- ・こはくのまちの保健室検討会議（年4回）
- ・まちの保健室ふれあいサロン（月1回）
- ・まちの保健室オレンジカフェ（月1回）
- ・出前保健室（保育園・認定こども園）（6回）
- ・出前保健室・オレンジカフェ（年1回）
- ・研修会予定（年1回）
- ・久慈市福祉祭り支援（10月）
- ・イベント支援
- ・久慈市あまちゃんマラソン大会救護係
- ・モグランピアマラソン大会救護係

〈沿岸地区〉 会員 14 名

- ・釜石市イベント参加者の救護活動
- ・釜石市特定健診受診者の問診

〈県南地区〉 会員 12 名

- ・リバーシブルバック作成（4月25日）
 - ・栞作成（和紙）（6月27日）（8月29日）
 - ・RFL参加（9月5・6日）
 - ・研修会（10月24日）
 - ・栄養教室（12月26日）
 - ・次年度計画（2月27日）
- ※個別活動については例年の内容で実施予定
 ※4月分は6月に実施予定
 ※9月事業中止



令和元年度東北地方 在宅保健師等会連絡会議報告

令和元年12月5日、6日の2日間、令和元年度東北地方在宅保健師等会連絡会議が宮城県仙台市で開催され、岩手県の会員5名を含む53名の関係者が参加しました。

◆研修会1日目

講演

演題：「被災者の命を守るために

まず何をすべきか」

南三陸病院(宮城県南三陸町)副院長

宮城県災害医療コーディネータ

西澤 匡史 先生

演題：「東日本大震災の経験から

－防災・減災に女性の視点で取り組む－」

特定非営利活動法人イコールネット仙台

代表理事 宗片 恵美子 氏

報告

「都道府県在宅保健師等会

全国連絡会について」

都道府県在宅保健師等会全国連絡会役員

阿部 恵美子 氏

◆研修会2日目

講演

演題：「国民健康保険の動向と

在宅保健師等会への期待」

国民健康保険中央会

調査役 鎌形 喜代実 氏

情報交換(グループワーク)

テーマ：「災害支援について」

副会長 木村 明美

西澤先生、宗片先生の講演を聴きながら、東日本大震災からのいろいろな場面が次々蘇りました。地震発生時に私は歯科診療介助中でした。ドスンという音と同時に大きな揺れと停電。肢体に不自由を持った患者さんを保護者とスタッフで急ぎ車椅子に移し、皆で館外の中庭に避難したのでした。また、4月から被災地支援が始まり、歯科医師会と歯科衛生士会のチームによる活動が沿岸部で行われました。避難所や仮設の老健施設等で出会った方々の表情や会話も思い出しました。講演を聴き私は、今後被災・防災について自分にできることや備えておくべきことは何かと改めて考えることになりました。また、当会においても、会報「ひまわり」第13号の活動報告を参考にして話し合いがもたれるようにと考えます。



中央会からは災害に関する在宅保健師等会員の対応と活動についての紹介や高齢者の保健事業の実施等多くの報告がありました。さらに、各県における在宅保健師等会の今後の活動に期待することも述べられました。

研修会出席の機会を頂き、他県の会員の方々との交流も楽しく有意義なものでした。貴重な二日間でした。



—— 幹事（職種代表） 佐々木 順子

初めに、南三陸病院副院長による震災時の状況と対応の報告がありました。

全国から多くの医師等の支援を受けた時点から、応援医師等が帰った後の町の医療保健福祉体制を考え対応していたこと、また、震災により町は壊滅し何も残らなかったが、これをチャンスととらえて将来ビジョンの構築を考えたことを話されました。

その中で、震災から助かった命が震災前よりさらに健康になるよう思いを含め「多くのメディア取材を活用した多種支援」と「復興財源」を活用して、災害時循環器リスク予防ネットを立ち上げ、遠隔医療や地域要観察者等の健康管理の継続的フォローをしていることに感銘しました。

次に、震災前から取り組んできた災害時の女性力活用で、防災、減災の取組みネットワーク形成を目指してきた「イコールネット仙台」から、東日本大震災では、即活動できたこと、避難所運営を男性リーダーが仕切ってきたが、女性目線での要支援問題が多々あり、女性も力を発揮し、リーダーとなり得る必要性があると話されました。

国保中央会の鎌形先生は「少子高齢化で、社会保障費が増大している。元気高齢者の通いの場づくり、特定健診・保健指導の実施率の評価によって、各自治体の交付金が決定する。岩手県は市町村間の高低差があるので、会員の豊富な経験を活かした活動支援に期待したい」と話されました。

グループ討議では、災害時の会員のあり方について話し合わせ、傾聴など心の支援が重要であると各グループより発表されました。

私自身も被災し、数日間避難所生活を体験したこと、咳と風邪のような症状に1年半悩まされたことを思い出しながら、講演を聞きました。

災害への備えとして、最も重要なことは、日ごろから町内会長、行政、医療保険福祉の関係者と、顔の見える関係を作っておくことだと痛感しています。

—— 幹事（二戸地区代表） 中里 早苗

年に一度の東北地区の保健活動を担う在宅者の会、昨年は盛岡で開催でしたが、今年は仙台で開催されました。新潟を含む東北7県からの参加で二日間にわたって交流を深めることができました。一日目の交流会と翌日のグループワークがほぼ同じメンバーであり、一層話しやすい状況だったように思います。



一日目の講演は災害に関する内容でした。地元宮城県のグループメンバーは歯科衛生士として東日本大震災、今年の丸森町の水害の際に支援活動を行ったとのこと。時機を逸した歯ブラシの配布で“住民の方におこられた”というエピソードを聞かせていただきました。

私のお隣さんは青森県で新人保健師の指導を担当している方でした。職場内にはプリセプター・指導担当者・指導責任者がいる中、家庭訪問や健康教育の際に、同行して現場活動の指導を行っているとのこと、青森県の指導体制の素晴らしさを感じました。

参加した方々は40代から70代位と広い年齢幅でありながら、専門職として熱意を持つ立場は変わらず、熱心なグループワークで豊富な情報交換ができました。



幹事（沿岸地区代表） 植田 幸子

1日目の講演では、8年前の震災体験を思い起こす内容のものでした。

被災地で起きたことはどこの場所でも同様の経過を辿り、今に至っていると感じました。決して悪いことばかりでなく、よいことを前向きにできたことに共感しました。

さらに、女性の視点での取り組みについて普段から男性リーダーのみならず、女性リーダーも防災に取り組めるようにしたい、認めてもらい災害から地域を守る活動をしていきたいということにも共感しました。

2日目は、在宅保健師等に対する支援が、昭和58年国保連合会における保健師の設置を契機とし、保険者が実施する保健事業について在宅保健師の人材活用が行われたと知ることができました。

最後のグループワークでは「災害支援について」意見交換されました。今後、在宅保健者がより良い活動をするために災害支援の内容、組織としての活動、連合会との活動など具体的にできること、例えば傾聴、訪問など専門職への期待、県からの派遣依頼、行政との仕組みづくり、具体的な活動体制など、これから連合会、中央会で災害時危機管理システムの構築のために提案していきたいと助言者が述べられました。

閉会では、宮城県の担当者から今回の研修内容は生かされないでほしいところであるが、近年災害が頻発していることから今までの経験と今回の研修を生かしてほしいなどと話され閉会しました。

今回初めて連絡会に参加して在宅保健師等、国民健康保険の動向、課題など知ることができました。会員にもこの内容を伝え今後の活動に生かしていきたいと思います。

そして、東北地方の在宅保健師の方々との交流会は、いきいきと活動されて様子を覗うことができ、大いに刺激となりました。参加させていただきありがとうございました。

**令和元年度都道府県在宅
保健師等会全国連絡会報告****会長 阿部 恵美子**

本連絡会は令和2年2月6日（木）全国都市会館（東京）で開催され、当国保連合会からは兼田一孝保健介護課副主幹兼保健係長と私の2名で出席して参りました。

この全国連絡会は在宅保健師等に対し最新の情報を提供するとともに、市町村への支援活動の在り方について考えることを目的に開催され、39都道府県から、79名（在宅43名、連合会職員36名）の参加がありました。

開会にあたり、国保中央会 原勝則理事長から、「2040年に向けた全世代型社会保障制度は健康寿命延伸を目的にインセンティブ改革・国保の保健事業・後期高齢者保健事業・介護保険事業を一体的に進めることとなり、地域全体をコーディネートするため広域連合から市町村に補助し保健師1名をスタッフとして配置する新施策が実施される。その際在宅の皆さんに是非協力していただきたい。」また、「新国保制度がスタートしているが、保健事業の仕組みや枠組みは変わらない。むしろ、皆様方に豊富な経験や技術を地域に還元していただかなければならない。」と挨拶されました。

続いて本年度就任した丸山路代会長（在宅保健師会「あいち」会長）からは、本連絡会が開催されるまでの経緯と、事務局及び参加された皆さんへの感謝の言葉と共に、国保連と協力しながら円滑にかつ効率的に進めていくために、原理事長の挨拶を引用し「『自分でやれる範囲で楽しく継続的な活動』を展開できるよう一緒に歩みましょう。」との挨拶をいただきました。

次に、国保中央会小池泰明主幹より、「保健事業を取り巻く国の動き」として、国の現状を踏まえた、最新の介護や健康づくり政策について資料説明がありました。

講演では田中明美（保健師、厚労省関係の各種委員等多数）奈良県生駒市福祉健康部次

長は、「高齢者の保健事業について介護の現状から考える～医療専門職の果たすべき役割～」について、生駒市の保健・介護行政に従事した体験から生駒市の介護予防事業の歴史を振り返りながら 2040 年に向けた社会経済の変化（全世代型社会保障制度）が現事業にどのように関係しているかを「第7期介護保険事業計画」や「地域包括ケアシステム」について資料を示しながら、今後 75 歳以上の後期高齢者が、地域づくりのための通いの場づくりに参加するかポイントになると話されました。

令和元年9月実施の都道府県在宅

保健師等会に係る調査結果について

◆国保中央会 成瀬沙弥華保健師から

資料により報告◆

40 都道府県に設置（地域での会活動は継続しているが愛媛県が退会）され、在宅保健師等会の目的「行政、医療機関、医療保険者等を退職した保健師（看護師、助産師、栄養士等）の知識や経験を活かし、市町村の保健事業や地域の保健活動に寄与するとともに、会員相互の親睦を図ること」を踏まえ、会員の年齢構成や職種、会費や保険の加入状況、活動状況、今年度取組んだ事業、新規会員拡大についての取組状況、手ごたえのあった活動等の報告がありました。

事例発表2題（大分県・神奈川県）

◆大分県（虹の会）

「お元気ですか」訪問について：令和元年モデル事業として高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の活動状況を紹介されました。

◆神奈川県（いちょうの会）

健康劇・特定健診等保険者支援について「特定健診未受診者の電話による受診勧奨」の発表がありました。

発表後に鎌形調査役がまとめを行いました。

GWは、会員グループ（A～G）は3テーマ（今後取り組みたい事業について、在宅保健師等に求められる役割について、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施についてどのようなことができるか）から1つを選び、国保連グループ（H～L）は高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施についてどのようなことができるかをテーマに、活発に話し合わせ、お互いにアドバイスをしたり、されたり、励ましあったりしている様子が全グループから約2分の持ち時間で報告がありました。

いずれも、高齢社会を実感せざるを得ない内容であり、地域の中で私どもの活躍を各方面から期待されている雰囲気を変えて確認した1日でありました。

なお、今回の資料については国保中央会のHPにアップされておりますので閲覧していただくとより参考になると思います。



会員の声



新年度スタート前からの新型コロナウイルス感染防止で自粛の為、会場の閉館、三密回避により事業開催がされておりません。そこに花巻市は前年度迄委託していた介護予防事業が市で全面的に実施する方向となり、各職種交替でこれまで講師をつとめてきた介護予防教室の担当がなくなりました。こういう時期でもありしばらくの間静かに沈静化を待つことになりそうですかね。(花巻地区)

お世話になっております。できれば久慈地区のお仲間に入れていただき活動したいと思います。よろしくおねがい致します。(久慈地区)

コロナウイルスのお陰で家での生活が多かったため、なかなか出来なかった趣味の針仕事で未完成のままのものが仕上がり満足した気分になっております。なかなか時間は作るものと言われていても、チョットした時間にチャッチャツと行なうという芸ができなくなってきた年齢かなと少しがっかりしたり…でも時間をかければ出来るんだという喜びを見つけられました。(県南地区)



「コロナ」が長期にならないよう願っております。(二戸地区)

3月31日で退職しましたが、看護師の仕事より介護の仕事の命令もあり、大部きつい職場でした。今は体を休めてのんびりと生活しております。ハガキをいただきましたが、しばらく空席みたいな会員でしたが、何かありましたらお声をかけて下さい。(盛岡地区)



桜の咲く頃からじゃがいもの植えつけや、山菜とり、周りの草取り等、忙しい日々を過ごしています。体力的にはウォーキング 7~8 kmや、シルバーリハビリ体操で学んだ事をやりながら過しています。(盛岡地区)

毎日テレビ体操をしています。早く支援活動が再開できると良いですね。(盛岡地区)

人生 100 年時代を生き抜くため「きょうようときょういく」に励まされていましたが、今はすべてストップ。「新しい生活様式を!!」と呼びかけられ、40年前国保の皆さんと学んだ「からだの設計にミスはない」橋本敬三先生の操体法関連の図書を読み、自然力を信じ自己観察、自己観想の自然体が大切なことと再認識した今日今頃です。再会楽しみにしています。(県南地区)





コロナ感染拡大防止のため、情報交換会を開催できない。6月中旬頃に一回目を考えている。石鳥谷の社協からの介護予防の要請がなくなり今年度から長寿社会福祉課に変わったようで、今のところ何も未定。5/27長寿福祉課担当者にTELし、何かできることを協力したいと話した。(花巻地区)

コロナ騒動でボランティアも休んでゴロゴロしてたら運動不足？脳梗塞になって(4/18)入院してしまいました。来週からリハセンでリハビリ。頑張っって歩けるようになりたい…です。皆さんも動き不足に注意して下さい。(久慈地区)



ソーシャルディスタンスを守りながらの生活も工夫し慣れて参りました。(盛岡地区)

新型コロナウイルスで4、5月をお休みしています。6月はまちの保健室、開けるのか、利用されている方もどうされているか心配です。早期に開けるよう祈っております。(久慈地区)

連日コロナにつきまとわれている感の毎日です。私が就職した39年、盛岡では赤痢が大発生。発生元の家を訪ね、行動調査、感染予防(手洗い等)、そして連日地区公民館での健康教室。知識をフル活用しての毎日だった事、懐かしく思っております。以降は上下水道の普及等により、感染症は沈静化していった様に思います。コロナウイルスはなかなかの“くせ者”の様子。まずは自己管理に努めて参りたいと思います。(盛岡地区)



会報、研修会のお知らせを頂きましてありがとうございます。ここ数年はいつも乍ら仕事と重なり出席出来ずに申し訳ございません。私は地域で産後ケアのアウトリーチ(訪問)をしております。又、みな様にお会いしたいと思っております。(県南地区)



陽気な季節、外を見れば美しい花々が咲きほこっています。しかし今年は浮かれる事なくいろいろな総会、会議、サロン、ランチ全てとざされて3ヶ月以上になりました。TVでは連日コロナのニュース。こわくて外に出れず巣ごもりでなく引きこもりになってます。フレイルにならないように皆さんにお逢い出来る日が一日も早く来ることを待ってます。(花巻地区)

事務局役員皆様大変御苦勞様です。新型コロナウイルスが終息し一日も早く元の生活になり、地域での活動ができることを願っています。皆様の御健康をお祈り致します。(県南地区)

新型コロナ渦中で外出自粛中、土曜、東和から釜石までの復興道路の車は10台にもみたく、世の動きが止ったと寒く感じました。(釜石の家をみに行ってます。)
「岩手県は現在感染者ゼロ」車窓から見える山々、田、畑の新緑を見ながら岩手に生まれ、岩手に住んでよかったと改めて岩手に恋して日々過しています。(盛岡地区)

コロナ危機をのりこえるため共にかんばりましょう。(二戸地区)



事務局からのお知らせ

岩手県国民健康保険フォーラムの開催中止について

例年8月に開催している標記フォーラムは、今般の新型コロナウイルス感染症の拡大防止及び出席者の安全確保を図るため、本年度は開催中止となりました。

新会員募集中！ ～地域で一緒に活動してみませんか？～

専門職としての豊かな経験を生かし、地域の健康づくりに取り組んでいます。
保健事業支援に必要な研修や情報提供を行いながら楽しい活動を目指しています。

<入会の要件>

県内に住む在宅の保健師・看護師・栄養士・歯科衛生士・助産師
(臨時・嘱託で勤務されている方も入会できます)

※加入希望者には、事務局から会員申込用紙を送付いたします。



会員登録状況 (令和2年6月15日現在)

会員 76名

国保イメージキャラクター
「ハピルスくん」

地区	職種					計
	保健師	看護師・ 准看護師	管理栄養士 ・栄養士	歯科衛生士	助産師	
盛岡地区	10名	7名	4名	4名	－	25名
花巻地区	5名	－	4名	2名	－	11名
久慈地区	－	4名	2名	－	－	6名
二戸地区	8名	－	－	－	－	8名
沿岸地区	6名	8名	－	－	－	14名
県南地区	6名	2名	1名	2名	1名	12名





ひまわり

担当 岩手県国民健康保険団体連合会 総務事業部 保健介護課 保健係

住所 岩手県盛岡市大沢川原3丁目7番30号

TEL 019-623-4324

FAX 019-622-1668